

手づくり絵本のいろは

絵本を手づくりするためのヒントを、ちょっとだけ紹介します。

●作る準備～必要な道具を考えよう～

1. 下絵を描くには

・えんぴつ ・消しゴム ・画用紙

2. 色を塗ろう

・絵具 ・色鉛筆 ・クレヨン ・スタンプ
・コラージュするもの（雑誌やチラシ等）

→版画などに挑戦しても楽しいね！

3. 仕上げの製本

・のり ・ステープラー(ホッチキス) ・はさみ
・クリップ ・ものさし ・リボンやテープ



●絵本に必要な文と絵

1. 文字の大きさは自由です

大きめにかくと、読む人にやさしいです。絵とのバランスをとりましょう。

2. 絵と文との配置

見開きページに絵や文字を書くときは、製本して、紙を綴じる時にきちんと文字が見えるか確認しましょう。

3. 絵本は、やっぱり絵が大事

文字だけで絵が少なくならないように注意が必要です。

※絵と文字を入れるバランスを、鉛筆でうすく線を引きながら考えましょう。

4. 紙の使い方

縦書きの絵本は右から、横書きの絵本は左からひらきます。

ページをめくる向きを考えながら、絵を描いたりしましょう。

●どんなおはなしにしよう？

1. テーマをいくつかメモ用紙に書きだそう

書きたいものを考えて、昔体験して楽しかったことなど…

きっかけになりそうなものをみつけよう。

たとえば…

・地球を大切にすることのおはなし ・動物の成長
・空の上 ・綺麗なお花 などなど

→絵本の世界を現実とは違う世界にしてみても楽しいね。

2. キャラクターを決めよう

身近な人を題材にしたり、不思議な力を持つ人が活躍するお話にしてみたり、
動物や人以外のもののお話にしてみたり。

→それぞれのキャラクターに名前を付けて、もっと個性を出してみよう。

3. 音や様子をあらわす言葉を使ってみよう

～どんな様子かな？～

・わくわく ・どきどき ・だらだら など



～どんな音かな？～

・とんとん ・ぱらぱら ・がしがし など

4. 「たとえ」をつかってみよう

五感を使って表現してみると、相手に伝わりやすい。

たとえば…

・「子犬のようにしゃぐ」子ども ・「ソフトクリームのようにおいしそう」雲 など

5. 話し言葉(セリフ)を入れてみよう

・そのとき、たろうはこういった。「おいらが鬼退治に行くよ」 など

●どんな絵を描こうかな？

絵本は、絵が主役です。おはなしにあわせて絵を描いたり、自由に絵を描いてから、後でおはなしをつけたりする方法もあります。

1. 下書きしてみよう

下書きには、鉛筆と消しゴム、チラシの裏などの紙を用意しましょう。

★得意な絵、好きな絵はなんですか？

描きたい絵が思い浮かばない時は、好きな絵を描いてみましょう。

動物の絵などは、いろいろな絵本や図鑑を見て参考にしてみましょう。

物の形の描き方が知りたい方には、芸術的な絵のデッサン本がオススメ。

図書館で借りて見てみよう。


★いろいろな表情をつけてみましょう。

イラスト・カット集に載っているイラスト・キャラクターもみてみると参考になるかもしれませんね。


2. 楽しい色塗り！

水彩絵具で色を塗る時は、筆と絵具と水を上手に使おう。


《にじみ》

	たっぷりの水で溶いた絵具を筆でとり、紙に塗ります。乾く前に、同じようにたっぷりの水でといた別の色を塗ると、色がにじみます。
---	---

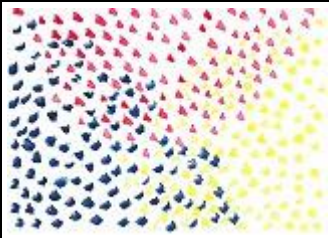
《ぼかし》

	筆に水だけをつけて、あらかじめ画用紙をぬらしておきます。その上に好きな色でぬって薄くのぼします。
---	--

《ドライブラシ》

	すこしの水でとかした絵具を、筆で紙の上へのせます。そこに乾いたブラシや筆でシュッシュッとこすりつけます。
---	--

《点描》

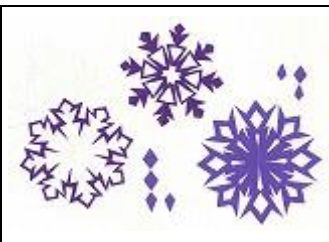


すくない水で絵具をとかし、すこしだけ筆に付けて、てん、てんと紙に絵具をつけていきます。
いろんな点々を重ねて、遠くから見ると色が混ざって見えます。

絵具以外にもポスターカラーなども使ってみましょう。筆の代わりにティッシュ、布なども色を塗る道具になりますよ。ローラーやブラシ、ふき流しなど、塗り方にもいろいろあります。もっと知りたい人は、図書館の本で調べてみましょう

★描く以外にも、いろんな方法で「絵」をつくることができます。

《紋切り》



折り紙をおった後、
ハサミで切るだけで、
すてきな形ができあがり！

《コラージュ》



新聞紙やチラシ、包み紙、雑誌の切りぬきなどで楽しい絵本ができます。

《版画》 立体感が出ておもしろい絵になります。



《発ぼうスチロール版画》
発ぼうスチロールをカッターなどで切って形を作ります。油性マジックでかきこむと、線がとけるので、切らずに作ることもできます

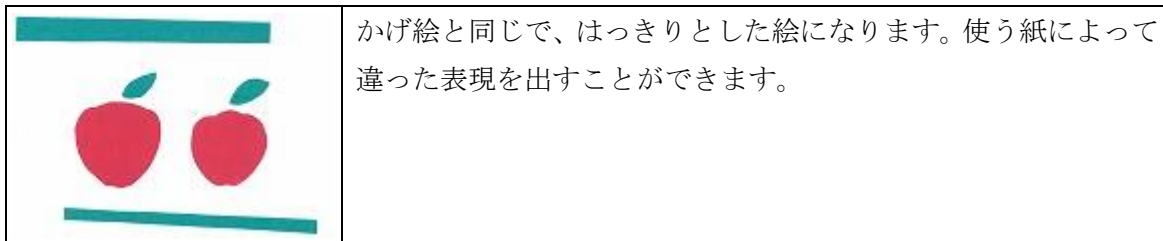


《ダンボール版画》
ダンボールを切って作ります。

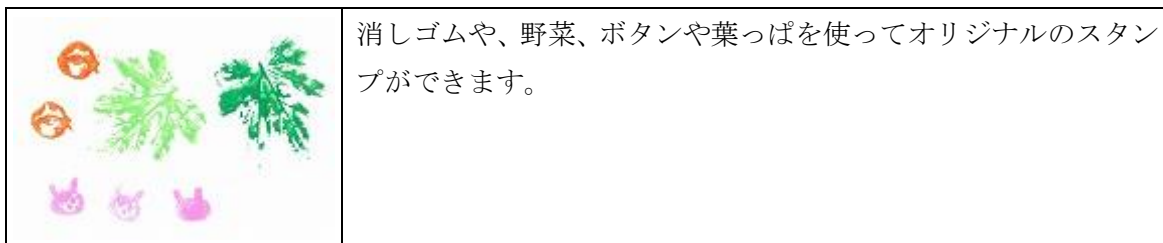


《ゴム、木版画》
彫刻刀を使うので、たいへんですが、できあがりはとても味のある作品に仕上がります。

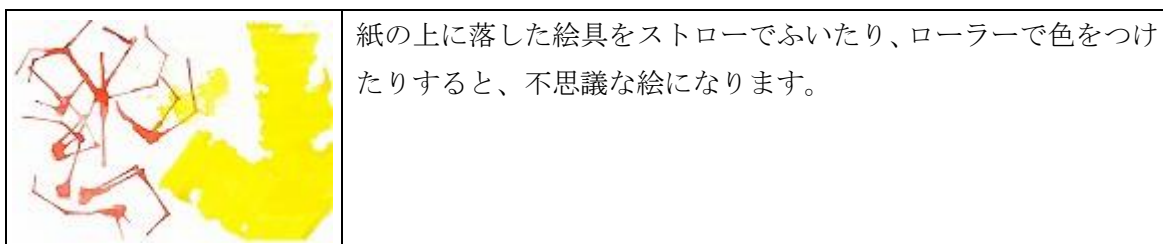
《はり絵》



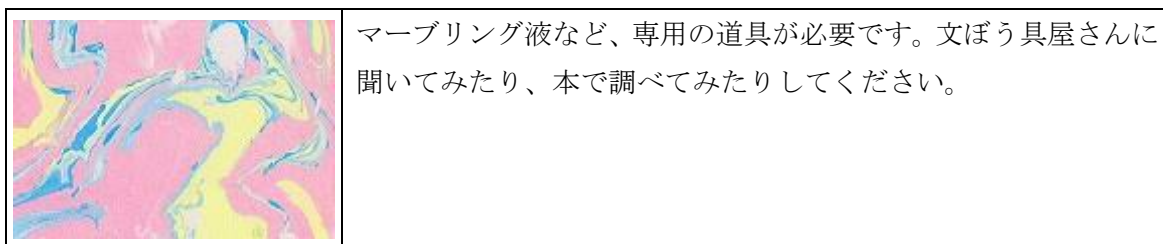
《スタンプ》



《ローラー、ふきながし》



《マーブリング》



●おはなしができたら

1.タイトルを決めよう

おはなしの内容が気になるタイトルをつけよう。

2.おはなしの終わり方を決めよう

満足、納得するような終わりかたや、不思議な結末など色々あります。

3.表紙は絵本の顔です

誰が作った絵本かわかるように、表紙にはタイトルと名前をかきましょう。

裏表紙に絵を描いてみよう。大きく描いたり、小さく描いたり、表紙と繋げても楽しいね。

●製本しよう

1.製本を始める前に

綴じるのに必要などころ(のりしろ)は何もかかないようにしましょう。

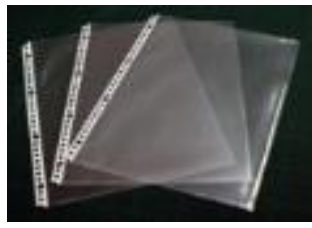
画用紙など、厚みのある紙の方が製本しやすくなります。

薄いコピー用紙を使う時は、色画用紙などを台紙として使うと丈夫になります。

あらかじめページごとにカバーをかけておくと、出来上がった絵本が汚れません。

2.カバーの種類

《透明ポケット》



色々なサイズの種類があります。
紙の大きさに合わせたサイズを選びましょう。
ちょうど良いサイズのものがあれば、その中に絵本の紙を入れ、紙と一緒にとじましょう。

《透明接着フィルム》



図書館の本の表紙などには全てこのフィルムがかけられています。
フィルムを貼ると、長い間本を綺麗に保つことができます。
詳しくは文ぼう具店で聞いてみましょう。

3.製本の方法

製本には3つの方法があります。作りたい絵本にあわせて、製本の仕方を選びましょう。

製本の仕方にあわせて、穴あけパンチ・のり・クリップ(洗濯ばさみなど)を用意しましょう。

《リボンをかけてとじる》



絵本に穴をあけて、そこにリボンを通して絵本の形にします。

- 1) 画用紙の縦、または横の長さにあわせて、パンチで穴を2~4コあける。
- 2) 穴をあけたら、ページがずれないようにクリップやホッチキスでとめる。
- 3) あけた穴にリボンをとおして、紙がバラバラにならないようにする。

★リボンの長さ

5mm幅のものを約1m用意(絵本の縦の長さ×3)+最後に結ぶ分

《伝統的な和綴じ》



日本独特の製本方法。糸で紙をとじます。

背はり用の和紙や「きり(穴あけ用)」を用意してとじてください。

- 1) 紙を2つ折りにし、折り目をそろえて、のど側(袋状になっていない側)に穴を4つあける。

- 2) 紐をとおして強く結ぶ(仮とじ)。

※クリップ等で止めると、うまくとじることができます。

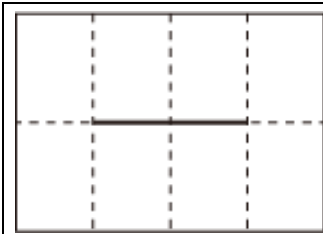
- 3) 背の天(上の部分)と地(下の部分)に布をつける。
- 4) 表紙・裏表紙を用意。本体の大きさにあわせて折り線を入れる。
- 5) まわりを折り込むと表紙になります。
- 6) 本文と表紙をあわせ、のどをのりばりしてから穴を4つあける
- 7) 本文と表紙をひもでとじる。

《重ねとじ》

- 1) 用紙を2つに折って、折り線をつける。
- 2) 紙を重ねる。
- 3) 折線の上に穴をあけ、ホッチキスの針か、リボン(ひも)でとじる。

※リボンの場合は、穴は2つあればとじることができます。穴は「千まい通し」や「きり」をつかきましょう。

《一枚の紙で絵本をつくる》



- 1) 1枚の紙を8つに折り、真ん中の部分をはさみかカッターで切ります。
- 2) 折りたたんでいくと、のりもホッチキスもいらぬ絵本ができます。

※コンクールに応募されるみなさんへ※

枚数も決められていますので、応募方法をご確認ください。

●ストーリーのヒント



おはなしのタネ

自分が好きな言葉から「おはなしのタネ」をみつけて、すてきなおはなしを作ってみよう。

「楽しい」という言葉からはじめて、たのしいといえば「プール」。プールといえば「つめたい」のようにどんな文字をつなげていきましょう。



ストーリー神社

だれが→どこで→なにを→どうした を順番にクリックするだけでおはなしのもとになるね。

「いつ」「だれと」を考えておはなしをふくらませよう。

・だれが ・どこで ・なにを ・どうした

●色塗りのヒント

色相環

12色相環は代表的な12色を丸い形に並べたものです。

向かい合う色を補色と言います。

補色同士を並べるととても目立ちます。

目立たせたい時に使うと効果的です。



寒色と暖色 (色から感じるイメージがあります)

寒い・冷たいと感じる色合い

暑い・暖かいと感じる色合い

